

# SDGs未来都市等進捗評価シート

栃木県宇都宮市

2020年9月

SDGs未来都市計画名




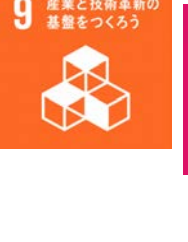
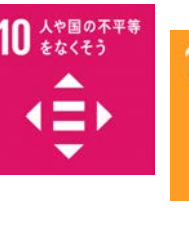





宇都宮市SDGs未来都市計画

# SDGs未来都市等進捗評価シート

2019年度

## 1. 全体計画

計画タイトル	栃木県 宇都宮市 SDGs 未来都市計画
2030年のあるべき姿	第6次宇都宮市総合計画（平成30年策定）で位置づけた宇都宮市が目指す将来のうつのみや像「輝く人の和 つながるまちの環 魅力と夢の輪 うつのみや」の実現に求められる概ね10年後のあるべき状態

2030年のあるべき姿の 実現に向けた 優先的なゴール	経済	社会	環境
	ゴール 8 ターゲット 8.9 ゴール 9 ターゲット 9.2 ゴール 10 ターゲット 10.2   	ゴール 9 ターゲット 9.1 ゴール 10 ターゲット 10.2 ゴール 11 ターゲット 11.2 11.3 ゴール 13 ターゲット 13.1 13.3    	ゴール 7 ターゲット 7.2 7.3 ゴール 12 ターゲット 12.3 12.5 ゴール 17 ターゲット 17.17   

優先的なゴール、 ターゲットに関する KPI	#	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値		2030年	進捗状況や課題等（定性指標や補助指標等を含む）
	1	年間観光入込客数【8.9】	2016年	1,483 万人	2022年	1,550 万人
2	市内総生産【9.2】	2014年	2,719,222 百万円	2022年	2,956,071 百万円	最新値（2017年：2,883,772百万円）は当初値を上回っており、順調に推移している。
3	女性就業率【10.2】	2016年	60.8 %	2022年	62.0 %	令和2年度に実施される国勢調査の中で把握予定
-	学習活動をしている市民の割合【4.3, 4.7】	2016年	38.4 %	2022年	43.2 %	令和3年度に実施される宇都宮市社会教育・生涯学習に関する市民意識調査の中で把握予定
-	「まちづくり活動に参加している」市民の割合【17.17】	2016年	— %	2022年	25.0 %	令和4年度に実施される市政に関する世論調査の中で把握予定
4	市内人口に占める都市拠点・地域拠点（都市機能誘導区域と市街化調整区域の地域拠点）の人口割合【9.1】	2016年	19.4 %	2022年	20.1 %	最新値（2019年：19.3%）は当初値を概ね同水準を維持している。引き続き、中心市街地や鉄道駅周辺などの各拠点において、地域特性に応じた機能的で魅力のある都市空間を形成しながら、居住や都市機能を維持・誘導していく。
5	宇都宮市で子育てをしていきたいと思う親の割合【10.2】	2016年	95.9 %	2022年	98.5 %	最新値（2019年：96.2%）は当初値を上回っており、順調に推移している。
6	公共交通夜間人口カバー率【11.2, 11.3】	2017年	89.8 %	2028年	100.0 %	最新値（2019年：91.9%）は当初値を上回っており、順調に推移している。
7	災害などの危機に備えている市民の割合【13.1, 13.3】	2017年	44 %	2022年	46 %	次期総合計画の策定（R5.3予定）の中で把握予定
-	学習活動をしている市民の割合【4.3, 4.7】	2016年	38.4 %	2022年	43.2 %	令和3年度に実施される宇都宮市社会教育・生涯学習に関する市民意識調査の中で把握予定
-	「まちづくり活動に参加している」市民の割合【17.17】	2016年	— %	2022年	25.0 %	令和4年度に実施される市政に関する世論調査の中で把握予定
8	太陽光発電設備導入世帯数（累計）【7.2, 7.3】	2016年	15,138 世帯	2022年	21,000 世帯	最新値（2019年：17,751世帯）は当初の値を上回っており、順調に推移している。
9	市民1人1日あたりの資源物以外のごみ排出量【12.3, 12.5】	2016年	781 g	2022年	734 g	最新値（2019年：796g）は当初の値よりも増加しており、消費増税に伴う駆け込み需要や令和元年東日本台風による災害廃棄物、新型コロナウイルス感染症対策に伴う家庭ごみの増加などの影響が考えられる。また、家庭系焼却ごみの中に依然として資源物や食品ロスの混入が見受けられることから、より一層、分別精度の向上や3Rに関する周知啓発の取組を強化する必要がある。
10	もったいない運動に取り組んだ人数【17.17】	2016年	36,896 人	2022年	43,800 人	最新値（2019年：34,456人）は台風などの外的要因により、2019年度における取組人数は減少したが、引き続き、全ての市民・事業者が「もったいないのこころ」をもった日常生活・事業活動の主体的な実践を推進していく。
-	学習活動をしている市民の割合【4.3, 4.7】	2016年	38.4 %	2022年	43.2 %	令和3年度に実施される宇都宮市社会教育・生涯学習に関する市民意識調査の中で把握予定
-	「まちづくり活動に参加している」市民の割合【17.17】	2016年	— %	2022年	25.0 %	令和4年度に実施される市政に関する世論調査の中で把握予定

# 1. 全体計画

行政体内部の推進体制	自治体SDGsの情報発信・普及啓発の取組状況・課題	有識者からの取組に対する評価
<p>■各種計画への反映状況や課題 2019年度に改定した『第2期宇都宮市まち・ひと・しごと創生総合戦略』や『第3期宇都宮市中心市街地活性化基本計画』等7つの計画において、位置づけた事業、取組等が、SDGsのどのゴールに、どのように貢献するのかを明記している。今後も、各種行政計画の改定時にSDGsの考え方等を反映し、各課が実施する施策や目標とSDGsとの関係性を、市民や事業者及び行政内部においてもわかりやすく示し、共有することで、社会全体でSDGsを推進していく。</p> <p>■行政体内部の執行体制及び首長のリーダーシップ 2019年8月に、市長を本部長、両副市長を副本部長、全部局長を部員とした庁内の推進体制である「うつのみやSDGs推進本部」を設置し、SDGsへの貢献に向けた取組を全庁を挙げて推進している。</p>	<p>■域内向け ・宇都宮市ホームページ内に、SDGs専用ページを開設するとともに、宇都宮市広報紙において具体的な取組事例等を用いた特集を掲載するなど、SDGsに関する情報発信を行った。 ・SDGsの普及啓発イベントの一環として、「ふれよう“もったいない”と“SDGs”、創ろう持続可能な未来都市」をテーマとした「もったいないフェア宇都宮2019」を開催したほか、宇都宮市内大学の学生団体が、独自の発想や視点から取り組んだ地域課題に関する調査や実践活動を踏まえ、成果を発表する「大学生によるまちづくり提案」を実施するなど、イベント主催団体や市内大学等の多様な主体と連携・協力しながら、SDGsの普及啓発を行った。</p> <p>■域外向け（国内） 本市をホームタウンとするプロバスケットチーム宇都宮ブレックスのホームゲームに合わせ、ポスター掲示やチラシ配布を行い、「SDGsとは」、「SDGs未来都市としての取組」などについて情報発信を行った。</p> <p>■域外向け（国外） 令和元年10月、アジアEST地域フォーラム（ベトナム ハノイ）におけるプレゼンテーションや、国際的スポーツイベントである2019ジャパンカップサイクルロードレースの記者会見において、宇都宮市が目指す都市空間の姿であるネットワーク型コンパクトシティの形成やLRT（次世代型路面電車システム）の整備など、本市のSDGsに関する取組を発信した。</p> <p>⇒新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、イベント等と連携した普及啓発事業が中止になるなど、予定していた普及啓発活動が実施できていないことから、新たな生活様式を踏まえた情報発信等に取り組んでいく必要がある。</p>	<p>■公共交通ネットワークで自由に移動できる多核連携型の「ネットワーク型コンパクトシティ」で市民主体の「ヒトの“うごき”」の活性化を目指す構想は、先駆的な未来社会のあり方を示しているが、進捗管理の方策について、自治体内部の横連携やガバナンス手法等を含め、具体的戦略の検討と評価指標の明確化について検討することが望まれる。</p> <p>■観光については、コロナ禍のもと2020年は厳しい状況と思われるが、長期的な達成を目指して強化を図ることを期待する。</p> <p>■SDGsが多様なゴールに気づかせるツールであることに鑑み、多様なゴールの重要性を各ステークホルダーに認識してもらおうと共に、施策実施においても多様な観点からのチェックを行うことができる仕組みが構築されることを期待する。</p>
ステークホルダーとの連携	地方創生・地域活性化への貢献	
<p>■域内向け 2020年1月に、SDGsに対する宇都宮市全体での理解促進と市民・事業者とのパートナーシップの基盤強化を図るため、「宇都宮市SDGs人づくりプラットフォーム」を設立し、行政をはじめ、市域の企業、NPO、教育機関などの多様な主体が連携し、SDGsの認知度向上を始めとした取組を実施しながら、市民、事業者のSDGsに対する理解を深めている。</p> <p>■域外向け（国内） 今後、人口減少が本格化や人口構造が変化する中であっても、持続的に発展していくため、様々な分野においてICTを利活用し、市民生活の利便性や生産性の向上などが図られた「地域共生型スマートシティ」の実現に向け、本市や早稲田大学、民間事業者等の連携組織である「Uスマート推進協議会」を令和元年7月に創設し、協議会の各団体と連携しながら先進技術の社会実装に向けた実証実験などに、取り組んでいる。</p> <p>■域外向け（海外向け） 令和元年10月、2019ジャパンカップサイクルロードレースの記者会見において、大会運営機関と連携し、宇都宮市が目指す都市空間の姿であるネットワーク型コンパクトシティの形成やLRT（次世代型路面電車システム）の整備など、本市のSDGsに関する取組を発信した。</p>	<p>■未来都市うつのみやの実現 本市においては、人口減少などの社会経済環境の変化に対応し、持続的に発展できるまちづくりを推進していくため、第6次宇都宮市総合計画において、「次代を築く人づくり」「健康づくりと福祉の充実」「安全・安心な地域づくり」「都市の個性づくりの更なる強化と魅力の発信」「地域経済を支える産業の活性化と環境調和型社会の構築」「骨格の強い都市の形成」の6つのまちづくりの重点課題を設定し、それらが解決された望ましい状態である「6つの未来都市」の実現に向けた施策・事業を展開しているところである。SDGs未来都市計画において整理した「今後取り組む課題」については、第6次宇都宮市総合計画に掲げたまちづくりの重点課題と整合を図っていることから、第6次宇都宮市総合計画やSDGs未来都市計画に基づき、SDGsの達成に向けて、総合的かつ効果的な取組を推進することで、「今後取り組む課題」の解決に貢献し、本市が目指す「6つの未来都市」を実現していく。</p>	

1. 全体計画

	取組名	ターゲット	指標名	当初値	2019年	21年	達成度 (%)	進捗状況や課題等 (定性指標や補助指標等を含む)
自治体SDGsの 推進に資する 取組の 2021年のKPI	魅力創造・交流に関する取組	8.9 17.17	年間の観光入込客数	2016年 1,483 万人	2019年 1,476 万人	2022年 1,550 万人	 -50% 0% 50% 100% -10%	旅行雑誌やSNS等を活用した観光情報の発信や首都圏をはじめ、新幹線沿線都市においてプロモーションや情報発信を行うことで、本市知名度の向上及び、本市への誘客促進に取り組んだ。令和元年度東日本台風の甚大な被害により、年間の観光入込客数は当初の値を下回ったが、概ね同水準を維持している。今後は新型コロナウイルス感染症の収束状況を見極めながら、引き続き、戦略的な観光振興事業を展開していく。
	産業・環境に関する取組	8.8	女性就業率 (25～44歳まで)	2016年 60.8 %	2019年 - %	2022年 62 %	 -50% 0% 50% 100% データなし	誰もが働きやすい職場環境づくりに向けた一般事業主行動計画の策定促進や、就業前の本市の大学生に対し、男女が互いに協力し、仕事と家庭を両立させるライフスタイルを体験するインターンシップを実施することで、仕事と生活の調和を図るための職場・家庭の環境づくりの促進や女性の就業継続意識の醸成を進めているが、指標については、2020年度に実施される国勢調査の中で把握予定
	子育て・教育に関する取組	10.2 4.3	宇都宮市で子育てをしたいと思う親の割合	2016年 95.9 %	2019年 96.2 %	2022年 98.5 %	 -50% 0% 50% 100% 12%	出産後の翌々月 (産褥期) までの妊産婦を対象とした妊産婦医療費助成の実施や、産後うつなどの疑いのある母親に対する心身のケア等を行う産後ケア事業の実施、社会環境や市民ニーズの変化を踏まえた教育・保育の供給体制の確保などに取り組むことで、妊産婦の健康増進や子育て家庭の経済的負担軽減を図るとともに、子育てしやすい環境の整備などを進めており、指標についても、順調に推移している。
	健康・福祉に関する取組	10.2 11.2 17.17	健康寿命の延伸	2016年 男性 79.56 歳	2019年 男性 - 歳	平均寿命の増加分を上回る健康寿命の増加	 -50% 0% 50% 100% データなし	市民の健康づくり活動を促進するため、運動や健診の受診などにポイントを付与する健康ポイント事業の実施や地域・職域における健康づくり活動などの充実に取り組んでいるところである。 また、本市をホームタウンとする3つのプロスポーツチームと連携した介護予防活動の充実や、在宅医療・介護従事者向けの相談窓口の設置を始めとする医療・介護連携の強化など、地域包括ケアシステムの深化・推進等にも取り組んでいるところである。 なお、指標については、介護保険事業における要介護認定を基礎数値とした、国が定めた市町村の健康寿命の算出方法に基づき栃木県が公表予定
				2016年 女性 83.58 歳	2019年 女性 - 歳		 -50% 0% 50% 100% データなし	
	交通に関する取組	11.2 11.3 17.17	公共交通夜間人口カバー率	2017年 89.8 %	2019年 91.9 %	2028年 100 %	 -50% 0% 50% 100% 21%	赤字バス路線に対する補助や既存バス路線の延伸、地域内交通 (乗合タクシー) の導入地区の拡大など、公共交通ネットワークの維持・充実に交通事業者や地域住民と一体となって取り組んでおり、指標についても、順調に推移している。
安全・安心に関する取組	13.3 11.5 17.17	災害などの危機に備えている市民の割合	2017年 44 %	2019年 - %	2022年 46 %	 -50% 0% 50% 100% データなし	市民や防災機関などが参加する総合防災訓練の実施や溢水・浸水被害などの解消・軽減に向けた計画的な「河川整備」、「雨水幹線整備」を実施することで、総合的な危機管理体制の充実や有効的な防災・減災対策を進めているが、指標については、次期総合計画の策定 (2023.3予定) の中で把握予定	

# 1. 全体計画

	取組名	ターゲット	指標名	当初値	2019年	21年	達成度 (%)	進捗状況や課題等（定性指標や補助指標等を含む）
自治体SDGsの 推進に資する 取組の 2021年のKPI	産業・環境に関する取組	7.2 12.5	太陽光発電設備導入世帯数（累計）	2016年 15,138 世帯	2019年 17,751 世帯	2022年 21,000 世帯	 45%	日照量が豊富な本市の地域特性を活かした太陽光発電に対する補助事業や地域に賦存する冷熱エネルギーを活用した農業の推進などに取り組んでおり、指標についても、順調に推移している。
		17.17	もったいない運動に取り組んだ人数	2016年 36,896 人	2019年 34,456 人	2022年 43,800 人	 -35%	台風や新型コロナウイルス感染症への対応などの外的要因により、2019年度における取組人数は減少したが、もったいないフェアを活用したもったいない運動の啓発や「もったいない残しま10！」運動の普及啓発活動などに取り組んでおり、引き続き、全ての市民・事業者が「もったいないのこころ」をもった日常生活・事業活動の主体的な実践を推進していく。
	「人づくり」及び「ヒトの“うごき”」を生み出す取組	17.17	SDGs 関連セミナーの参加者数	2019年 0 人	2019年 150 人	2021年 540 人	 28%	市民・事業者に対するSDGsの普及啓発を図る「宇都宮市SDGs人づくりプラットフォーム講演会」を開催し、基調講演や事例発表を行った。当初予定していた定員を上回る150名の市民・事業者の参加があり、指標についても、順調に推移している。
		7.2	再生可能エネルギーの地産地消によるCO <sub>2</sub> の削減効果	2019年 0 t-CO <sub>2</sub>	2019年 0 t-CO <sub>2</sub>	2021年 4,500 t-CO <sub>2</sub>	 0%	市内の再生可能エネルギーを活用し、エネルギーの地産地消や市域の低炭素化を目的とした「地域新電力会社」について、2021年度の会社設立に向けて、関係者と緊密に連携・調整を図りながら、計画的に事業を進めている。